



特集
私たちが受け継ぎ、体現する
ブリヂストンの4つのDNA

P.02



特集
「安全はすべてに優先する」

P.10



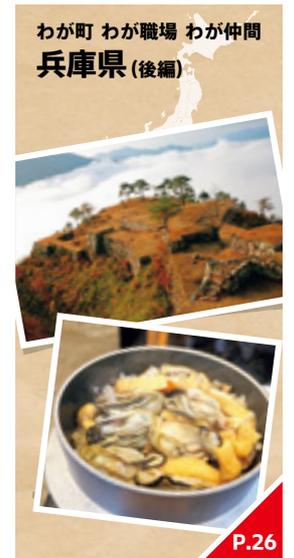
知って納得! ブリヂストン講座
2023年度連結決算

P.9



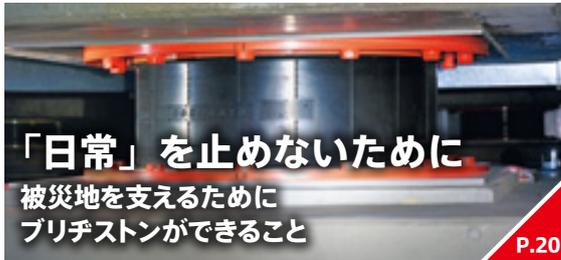
世界最高峰の
ゴルファーたちを支える、
ブリヂストンのゴルフボール

P.16



わが町 わが職場 わが仲間
兵庫県 (後編)

P.26



「日常」を止めないために
被災地を支えるために
ブリヂストンができること

P.20



師匠と弟子
(株)ブリヂストン 鳥栖工場

P.24



当世海外事情 南アフリカ共和国

P.28

02 特集 私たちが受け継ぎ、体現する
ブリヂストンの4つのDNA

09 知って納得! ブリヂストン講座
—— 2023年度連結決算

10 特集「安全はすべてに優先する」

16 世界最高峰のゴルファーたちを支える、
ブリヂストンのゴルフボール

20 「日常」を止めないために
被災地を支えるためにブリヂストンができること

24 師匠と弟子
—— (株)ブリヂストン 鳥栖工場

26 わが町 わが職場 わが仲間
—— 兵庫県 (後編)

28 当世海外事情
—— 南アフリカ共和国

30 お客様の声

31 新たな価値を提供する
乗用車用タイヤの新商品
「REGNO GR-XIII」

32 ありがとうの気持ち
読者プレゼント

私たちが受け継ぎ、体現する

ブリヂストンの4つのDNA

ブリヂストンは、1931年の創業以来、「最高の品質で社会に貢献」を使命として、時代と共に変わりゆく社会のニーズに対応し、一人ひとりの安心・安全な移動や暮らしを支え続けながら歩みを進めてきました。

この歩みと共に培われてきたのが、「品質へのこだわり」「現物現場」「お客様の困りごとに寄り添う」「挑戦」というブリヂストンの4つのDNAです。

ブリヂストンの
4つのDNA

品質へのこだわり

現物現場

お客様の困りごとに
寄り添う

挑戦

創業からの歩みとブリヂストンDNA

1931
創業

創業者 石橋正二郎は「タイヤの国産化」に「挑戦」。1930年に第1号の「ブリヂストンタイヤ」が誕生し、1931年3月1日に福岡県久留米市にて「ブリヂストンタイヤ株式会社」が設立されました。創業の翌年にはアジアへの輸出も開始しています。



1988 米国第2位のタイヤメーカー、
ファイアストーン社を買収

北米への本格進出を目指し、当時米国第2位のタイヤメーカーであったファイアストーン社を買収。買収額は約26億ドル（約3,300億円）で、当時の日本企業の海外企業買収額としては最大の規模で、グローバル化への大きな「挑戦」でした。これによりブリヂストンはタイヤの世界シェアTOP3に名を連ねることになります。



Bridgestone 2.0
第二の創業



2000～

ソリューション事業の
展開を開始



「現物現場」で「お客様の困りごとに寄り添い」ながら、タイヤを「創って売る」から「使う」へと、お客様がタイヤを使う段階で断トツ商品の価値を増幅し、困りごとを解決するソリューション事業へと事業領域を広げています。

Bridgestone 3.0
第三の創業



2022

企業コミットメント「Bridgestone
E8 Commitment」の制定

「2050年 サステナブルなソリューションカンパニーとして社会価値・顧客価値を持続的に提供している会社へ」をビジョンとして掲げ、その実現へ向けた変革を加速するため、未来からの信頼を得ながら経営を進める軸として、2022年に企業コミットメント「Bridgestone E8 Commitment」を制定しました。このコミットメントはブリヂストンの使命、大原則「タイヤは生命を乗せている」、そしてブリヂストンDNAを反映しています。ビジョンの実現に向け「挑戦」を続けています。



Bridgestone 1.0
創業



1968 デミング賞実施賞の受賞と社是の制定

ブリヂストンは、卓越した品質管理を実施している企業に与えられる「デミング賞実施賞」を、1968年に業界で初めて受賞しました。このデミング賞受賞に向けて、1950年代から経営品質向上に向けた活動を強化し、1964年には、その活動を独自に「デミング・プラン」と名付けて推進してきました。現在もGlobal CQMO・品質経営管掌のもと、「TQM推進部」にて活動を継続しています。また同年、「最高の品質で社会に貢献」を社是に制定しました。現在も企業理念の使命として受け継がれており、「品質へのこだわり」はブリヂストンのDNAとなっています。



1997

最高峰のモータースポーツF1® 参戦

ブリヂストンは1997年に、モータースポーツの最高峰であるF1®へ参戦します。他にも、ファイアストーンブランドで1995年に米国INDYCAR®SERIESへ復帰し、二輪の世界最高峰レースであるMotoGP™にも2005年に参戦。この「極限」への「挑戦」こそが、ブリヂストンが世界中でプレミアムタイヤを基盤としたビジネスを展開する原動力となりました。

こうして創業から私たちの根底に流れ続けるブリヂストンのDNA。それぞれの持ち場・立場で尽力する仲間たちも、これらを体現して日々の業務に取り組んでいます。次のページからは「現物現場」で「お客様の困りごとに寄り添い」ながら、そして「品質へのこだわり」を持って「挑戦」を続ける仲間たちを紹介します。

私たちに受け継がれ、体現されるDNA

私たちの各職場での業務に体現されているブリヂストンDNA。
今回は、開発から販売の現場を結ぶ大切な役割を担う、
ブリヂストンタイヤソリューションジャパン(株)の
北海道技術サービス部で奮闘するお2人にお話を伺いました。



ブリヂストン
タイヤソリューションジャパン(株)
技術サービス本部
北海道技術サービス部 課長代理
霧 隆広さん

ブリヂストン
タイヤソリューションジャパン(株)
技術サービス本部
北海道技術サービス部 部長
高月 哲哉さん

現物現場でバリューチェーン全体をつなぐ架け橋に

タイヤに関する幅広い知識を基に、お客様から真の困りごとを聞き出し、それらを解決する商品やソリューションをご提案することで、「**タイヤをより安全に、長く、上手く、効率的にお使い頂く**」。これが技術サービスのミッションです。一言で表現するならば、お客様への「適合品推奨」。開発から販売まで、バリューチェーン全体の「架け橋」として、新しい商品の開発やビジネスの創出にも貢献しています。



適切な商品を、 適切に使っていただくために

「適合品推奨」は、正しい情報をお客様に提供することから始まります。技術サービスはお客様が最適な状態でタイヤを使用できているか、セールスマンと共にお客様のいる「現場」に頻りに足を運び、使っていたいているタイヤの「現物」を確認していきます。

日々、お客様と信頼を構築しているセールスマンだからこそできるご提案があると同時に、幅広い知識を持った技術サービスだからこそできるアドバイスがあります。タイヤの状態だけでなく、メンテナンスや車両の運用管理についてもプロの目線から確認し、セールスマンと一緒に、適切な商品やソリューションを提案することで、安心・安全をすべてのお客様にお届けしています。

真の困りごとを見つけ出す

例えば、お客様から「車両管理にかかる費用を抑えたい」というご相談をいただくことがあります。どうしてもタイヤの価格への要望につながるケースが多いです。ただ、こういったケースでも、複合的な視点からじっくりとお話を伺うことで、真の困りごとにとどまらず、タイヤの種類はもちろん、使用実態やメンテナンスの状況、車両との相性といった、タイヤを取り巻く定量的・定性的な情報はさまざまなものがあります。これらをセールスマンと共に、

幅広い視点からヒアリングを行い、分析をすることで「お客様の困りごとに寄り添う」ような、最適な提案を導いています。

「良い種まきをし、 新たなビジネスを創る」 ために

技術サービス担当のありたい姿として「先に知り、先に動き、次を動かせ」という言葉を掲げています。ブリヂストンが業界の動向をいち早くキャッチし、他社に先駆けて行動し、業界をリードしていく存在であり続ける。そのためには「良い種まきをし、新たなビジネスを創る」姿勢が重要です。セールスマンなどの人材育成や、市場の変化に対応した新サービスの提案など、次のビジネスにつながる「種まき」を行っています。

さまざまなメンバーと一緒に、市場に対する感度を高め、業界をリードするブリチス

トンを支えるために、私たちの「挑戦」は続いていきます。

お客様の真のニーズを 未来の商品や ソリューションへ

日常的にお客様と接することができる点は、技術サービスの魅力の一つです。お客様のもとへ頻りに足を運び、日々のコミュニケーションの積み重ねから、確かな信頼関係を築いていきます。こうした信頼関係から引き出した真のニーズは、技術開発部門とも共有し、新たな商品の企画や次のソリューションビジネスの構築に生かしていきます。

お客様へより良い商品をお届けするために、商品の評価を一緒に行うこともあります。具体的な事例を次のページからご紹介いたします。



性能を測る“ものさし”をお客様と共につくる タイヤの「すり合わせ評価」

お客様の安心・安全な移動を支えるため、日々、新しいタイヤの開発を続けるブリヂストン。新しい商品がお客様の求める性能を満たしているのか、同じ目線で評価するためには、“ものさし”をつくる必要があります。その“ものさし”をつくるべく、お客様にもタイヤの感触を確認してもらい、「現物現場」で共に議論をする「すり合わせ評価」という取り組みがあります。今回は、北海道・士別市にあるブルーピンググラウンド（以下、HPG）を拠点として行われた、すり合わせ評価の様をお伝えします！



実際の路面を走行し、データの収集と挙動の確認

今回のすり合わせ評価は、日頃からブリヂストンのスタッドレスタイヤをご利用いただいているエア・ウォーター物流（株）様（以下、エア・ウォーター）ご協力のもと、実施されました。評価用のタイヤを装着したトラックで実際の路面を走行。エア・ウォーターのドライバーさんに車両の挙動と運転時のフィーリングなどを確かめていただきました。

運転中の各データを取得するため、トラックには測定器を積んでいます。エア・ウォーターのドライバーさんの隣に同乗するのは、（株）ブリヂストン 実車試験部の加藤 伸二さん。走行中の運転操作や車体の挙動について、感覚をすり合わせていきます。



エア・ウォーターで実際に使用している輸送トラックにブリヂストンの担当者も同乗し挙動を確認



HPGから出発。この時の気温は約マイナス9度。凍結した路面約50kmを1時間ほどかけて走行します

定量的なデータとドライバーならではの感覚をすり合わせ

走行後は、エア・ウォーターの関係者や（株）ブリヂストンの実車試験部に加え、車両の挙動解析を行っているソリューション開発第1部、新商品の開発を進めるタイヤ開発第1部門、そして、ブリヂストンタイヤソリューションジャパン（株）北海道エリアソリューション推進部、北海道技術サービス部のメンバーが集まり、討議を行いました。走行中の測定データをお互いに見ながら、ブリヂストンからドライバーさんへ「この地点では車体にこういう挙動が見られましたが、運転中に気になった点はありましたか？」などの細かい確認をしていきます。客観的かつ定量的なデータと、ドライバーさんにしかわからない感覚のすり合わせを進め、性能を測る“ものさし”を一緒に作りあげていきます。

この日は朝から夕方まで、計3本の走行を行いました。今回のすり合わせ評価で作りあげた“ものさし”をベースにして、ブリヂストンは新しいタイヤの開発を続けていきます。



関係者による討議の様子



HPG近郊の名寄市にあるタイヤショップ、（有）ふじいタイヤ様のスタッフにご協力いただき、次の走行に備えてタイヤを交換

お客様にも伝わる「品質へのこだわり」

今回、すり合わせ評価にご協力いただいたエア・ウォーター様にブリヂストンについて聞いてみました。



エア・ウォーター物流（株）
苫小牧物流センター 整備工場
課長
田野 修 様

エア・ウォーター物流（株）
苫小牧営業所
主任
鈴木 茂 様

田野さん ブリヂストンのスタッドレスタイヤは当社ではもう数十年使っていますが、特に私がある苫小牧の拠点では、ブリヂストンだけを装着しています。他の拠点では他社さんのタイヤを併用しているところもありますが、ドライバーからは「やっぱりブリヂストンが一番」という声が多いです。

鈴木さん ブリヂストンのタイヤなら、冬場も信頼して走れます。カーブなどで違いがはっきりとわかるのですが、「安心して曲がれる」と感じる人が多いですね。ブリヂストンの「品質へ

のこだわり」を感じます。

田野さん また発進のときのストレスが少ない、という声も多いですね。冬場の凍結した路面では、タイヤがしっかりと路面を噛まないでスムーズに発進できないのですが、その心配がなく走り出せます。信号待ちの後の発進でも後続車を待たせることが少ないので、これがドライバーにとっては大きなストレスの軽減になります。

鈴木さん 長距離運転では「何も考えずに走れる」というのがとてもありがたいです。

田野さん ブリヂストンの技術サービス担当者は、タイヤの個性や技術的なことなど、普段からいろいろな話をしてくれます。頻りに営業所に顔も出してくれますし、一生懸命対応してくださっています。また、ブリヂストンにはぜひ“魔法のタイヤ”を作ってほしいです。タイヤの種類によってブレーキ性能や耐久性など、それぞれが長けている部分があると思います。それら個々の性能が全て100%を満たすような、そんなタイヤを作っていただけたらいいと思います。

鈴木さん 実は私はプライベートでは他社製のタイヤを履いてるのですが（笑）、奥さんと子ども達には絶対にブリヂストンのタイヤを履かせるようにしています。普段、運転に慣れている私はともかくとして、家族の安心・安全は絶対ですから、譲れないこだわりをしています。

経営・業務品質の向上を最優先に

(株)ブリヂストン
取締役
代表執行役 Global CEO
石橋 秀一



ビジョンの実現に欠かせないブリヂストンDNA

当社は3月1日に93年目の創立記念日を迎えました。1931年の創業以来、「最高の品質で社会に貢献」を不変の使命として、変わりゆく社会のニーズに対応し、一人ひとりの安心・安全な移動や暮らしを支え続けてきました。これからも「2050年 サステナブルなソリューションカンパニーとして社会価値・顧客価値を持続的に提供している会社へ」というビジョンの実現を目指すべく、「2030年 長期戦略アスピレーション（実現したい姿）」を道筋・北極星として、3月1日に発表した中期事業計画（2024-2026）に沿って経営を進めていきます。

この道筋を前進していくにあたって欠かせないものがブリヂストンDNAです。

経営・業務品質の向上に向けて「品質へのこだわり」

中期事業計画（2024-2026）の起点である2024年は、中期事業計画（2021-2023）の残課題である「変化に対応できる強いブリヂストン」に

戻すことに注力し、経営・業務品質の向上を最優先課題とします。品質を強化していくにあたり、基盤となるのは、ブリヂストンDNA「品質へのこだわり」と、それを反映する当社の使命「最高の品質で社会に貢献」です。これをグローバルで再確認すると共に、原点へ回帰し、1960年代から推進しているブリヂストン独自のデミング・プランを再確認・再浸透することから始めていきます。

5つの合言葉「PDCA」「なぜなぜ分析」「標準化」「データでものを言う」「重点管理を行う」

当社は、1968年にデミング賞を受賞しました。この賞は、日本の品質管理運動に大きく貢献したデミング博士の功績を讃えて1951年に創設されたもので、産業界では品質管理活動に全社的、総合的に取り組む会社と与えられる最高の荣誉と評価されています。

当社においては、「品質は経営全体の問題」、「経営理念と深く関係する」と主張したデミング博士の手法を分析、1950年代から経営品質向上に向けた活動を強化しました。1964年に

は、独自にその活動をデミング・プランと名付け、推進本部を設置、デミング賞受賞に向けて取り組みを進めました。現在もGlobal CQMO・品質経営管理のもと、「TQM推進部」にて活動を継続しています。

デミング・プランの基本思想は、「良い品質の製品は、良い体質の会社から生まれる」です。これに基づき、「PDCA」「なぜなぜ分析」「標準化」「データでものを言う」「重点管理を行う」の5つの合言葉を、全社で再確認・再浸透し、加えて、整理・整頓・清掃の3Sと、その実行・維持・習慣づけにつながる清潔・しつけも大切にしていきます。

価値創造へよりフォーカス

デミング・プランを原点として、皆さんそれぞれの職場においても、現物現場でPDCAを回しながら、経営・業務品質の向上に向けた取り組みを推進させていただきたいと思います。その上で、価値創造によりフォーカスし、当社創立100周年となる2031年に向けて、Bridgestone E8 Commitmentを軸、指針としながら、グローバル従業員の皆さんと共に、ビジョン実現への歩みを進めていきます。

知って納▲得！ ブリヂストン講座

THEME

2023年度連結決算

今回のテーマは、2月16日に発表した2023年度連結決算です。2023年度の実績およびポイント、そして2024年度の業績予想を紹介します。

2月16日に2023年度の決算が発表されたね！

そうなんだよアロー君。一緒に内容を見てみようか。

(株)ブリヂストン IR部
大橋 勇人さん

2023年度 連結業績

(単位：億円)	2022年通期実績	2023年通期実績	増減 (%)
売上収益	41,101	43,138	+5
調整後営業利益	4,826	4,806	△0
親会社の所有者に帰属する当期利益	3,003	3,313	+10
うち継続事業	3,054	3,269	+7
うち非継続事業	△51	44	-
ROIC (%)	9.4%	8.7%	△0.7 pp*
ROE (%)	10.9%	10.4%	△0.6 pp

※pp：パーセントポイント、%同士の数字の差を示す際に用いる単位

〈参考〉

(1ドルあたりのレート)	132円	141円	+9円
(1ユーロあたりのレート)	138円	152円	+14円



売上収益は、米欧のトラック・バス用タイヤの需要減少による販売数量減などの影響があったけど、市販用乗用車用プレミアムタイヤの拡販による販売MIX改善や、鉱山用超大型／大型タイヤの拡販、そして為替の追い風もあり前期比で増収だったよ。調整後営業利益は、原材料やインフレのマイナス影響は売値・販売MIX改善でカバーしたけど、販売数量減少による影響と、それに伴う加工費の増加、アルゼンチンにおける急激な通貨切り下げへの対応による減益が影響し、前期比減益となったんだ。

2023年は売上収益は伸びたけど、調整後営業利益はわずかに前年を下回ったんだね。

また、ROICは目標としていた10%には届かなかったんだ。「稼ぐ力の強化」を進め、「変化に対応できる“強い”ブリヂストン」へ戻すために、引き続き各職場で価値創造にフォーカスした取り組みの推進が求められるね。



2024年度 連結業績予想

(単位：億円)	2023年通期実績	2024年通期予想	増減 (%)
売上収益	43,138	44,300	+3
調整後営業利益	4,806	5,300	+10
親会社の所有者に帰属する当期利益	3,313	3,590	+8
うち継続事業	3,269	3,590	+10
うち非継続事業	44	-	-
ROIC (%)	8.7%	9.4%	+0.7 pp
ROE (%)	10.4%	10.6%	+0.3 pp

2024年も引き続き厳しい事業環境が予想されるけど、数量・売値・Mixの改善で増収増益を見込んでいるよ。



今年は中期事業計画（2024-2026）のスタートになる年。目標を達成できるように一人ひとりが現物現場での業務品質にこだわって頑張ろう！



「安全はすべてに優先する」

安全は私たちブリヂストンの企業経営の基盤であり、「良いビジネス体質を創る」ための大前提です。「最高の品質」のものをお客様に提供するには、まずは「パーフェクトな安全」を実現すること。グループグローバル共通の安全宣言「安全はすべてに優先する」に基づくブリヂストングループの安全への考え方や、各現場での取り組みをご紹介します。

安全の確保はすべての企業活動の大前提

ブリヂストンの安全宣言

「安全はすべてに優先する」。ブリヂストンは、2003年に安全宣言を制定、安全の確保をすべての企業活動の前提に置き、企業理念体系において絶対基盤と位置付けています。2005年、栃木工場火災の反省を踏まえ防災の観点を加え、2013年に現在の安全宣言の形にリファイン、グループグローバルに展開しました。「誇りをもてるパーフェクトな安全」の実現に向け、ブリヂストングループ共通の安全活動として、「3S（整理・整頓・清掃）」「KY（危険予知）」「RA（リスクアセスメント）」「安全ルール」を規定し、全ての職場で一人ひとりが実践しています。



目指すべき安全活動

共通安全ルール

過去に国内工場で発生した重篤災害18件の発生原因を整理したところ、共通している要因がありました。これらを具体化したものが8つの共通安全ルールです。職場に来て命を落とすことは絶対にあってはならないことです。同じ災害を二度と起こさないために、一人ひとりが共通安全ルールのできた背景を理解し、自ら実践しましょう。また、各事業所では、この共通安全ルールに加え、過去に発生した災害を繰り返さないために、作業リスクに応じて事業所毎の安全ルールを制定しています。

職場における設備や作業に潜むリスク（危険源）を特定し、定量的な評価結果に基づいて対策の優先付けを行います。こうしてリスク低減を図る活動をRAといいます。この取り組みを通じて設備的なハード対策を実施していますが、ハード対策だけではリスクを排除できない場合もあります。パーフェクトな安全に向けて、一人ひとりが職場のリスクをしっかりと認識し、共通安全ルールに基づく行動を実践しましょう。



(株)ブリヂストン
G安全・防災推進課長
日高 敬介さん

してはいけないこと	項目	しなければならないこと
非常停止をかけずに、定められた危険領域内に入ってはならない。	危険領域	定められた危険領域内に入る時は、非常停止をかけ、タグを操作盤にかけること。
非常停止装置・安全装置・ガードを取り外したり、無効化したままマシンを起動してはならない。	非常停止装置・安全装置等	非常停止装置・安全装置・ガードを取り外したり、無効化する時は、課長以上の許可のもと、職長が立ち会うこと。
異常処置作業時、認定されていない作業を行ってはならない。	異常処置作業	異常処置作業で、認定されていない作業は、職長へ連絡し、指示を受けること。
吊り荷の下に身体を入れてはならないし、第三者も入れてはならない。	吊り作業	吊り荷の下から外れ、第三者も吊り荷から遠ざけること。
組み作業は、合図応答せずに、実施してはならない。	組み作業	組み作業は、作業指揮者を決め、合図応答を実施すること。
認められたセンサー以外は、触ってはならない。	センサー	認められたセンサー以外は、認定された者に調整・清掃してもらうこと。
制御盤の扉を開けてはならない。	制御盤	認定された者が、制御盤の扉を開けること。
2m以上の高所作業では、ヘルメット、安全帯を使用せずに作業してはならない。	高所作業	2m以上の高所作業では、ヘルメット、安全帯を使用すること。

安全5大リスクと意識・技術・仕組み面からのリスク低減

過去に起きた災害の要因分析から、ブリヂストングループにおいて、重篤・重傷災害につながる可能性のあるリスクを「安全5大リスク」と定義し、意識・技術・仕組み面からリスク低減・災害の未然防止を図っています。



ブリヂストングループにおける重篤・重傷災害



2013年の安全宣言リファイン後、グローバル共通の安全活動を強化してきました。意識面では、従業員の安全意識や工場の安全体質を定量的に評価する「安全成熟度評価」を導入し、課題の見える化と改善を図っています。今年から対象を販売や物流拠点に拡大し、バリューチェーン全体での安全確保に取り組んでいきます。また、技術面では、グローバルの設備安全規格を生産設備を管轄する部門と共同で整備するとともに、AI技術を活用した設備挟まれ/巻き込まれ対策の実証も進めています。そして、仕組み面では、先述の安全5大リスクを中心に災害の未然防止に必要な安全要件をグローバルで標準化し、安全を確保しています。

安全な職場の実現には、意識・技術・仕組み面からのアプローチが不可欠です。一人ひとりの安全意識の醸成、リスク低減のための安全技術開発、構築した仕組みの浸透・徹底をSBUの皆さんと連携して進めています。



(株)ブリヂストン
安全・防災・環境部門
G安全・防災戦略企画・技術部長
野田 尚宏さん

ハード対策へのこだわり

リスク低減の種類は大きく2種類あり、安全柵や安全装置を設置するなど工学的な対策を講じるハード対策と、作業標準の策定や教育の実施など管理的な対策を行うソフト対策に分かれます。もちろん両方の対策を実施しますが、人は心理状態の変化などで間違った行動をしてしまう可能性があるため、ブリヂストンでは、ハード対策からリスク低減を進めています。

ハード対策へのこだわりは、ブリヂストンのRAの大きな特徴です。パーフェクトな安全の実現を目指し、RAをベースとした改善に引き続き取り組んでいきます。



(株)ブリヂストン
G安全・防災戦略企画・技術部
柴崎 広樹さん

現場で取り組む安全事例

ブリヂストングループのそれぞれの現場で進められている安全意識の醸成、技術・仕組み面での改善の取り組みをレポートします。

(株)ブリヂストン 防府工場

基本に忠実に。ボトムアップの「こだわり安全活動」



お話を伺った主任会と職長会メンバーの方々

主任会メンバー 松本 吉明さん、出穂 真樹さん、天本 光克さん、吉末 直大さん
職長会メンバー 齊藤 和宏さん、貞頼 啓治さん、神徳 清隆さん、石丸 智義さん、宇佐見 猛さん

主任会メンバーでの打ち合わせの様子

「二度と繰り返さない」決意を取り組みに

防府工場ではこれまでも安全活動に取り組んできましたが、2021年の年末に設備保全業務において重篤災害が発生してしまいました。年の瀬で生産活動も終わり、それぞれが年末年始を過ごすため休暇に入ろうとしていた矢先のこと。当時の安全専任職長だった石丸さんは、事故の連絡を受け会社に戻って現場を見たとき、今までやってきた安全指導は現場を守る指導だったのか、と自問自答を繰り返しました。尊い仲間を失った悲しみを忘れないために、二度と同じ災害を繰り返さないために、職長会、主任会では、何度もみんなで集まってなぜなぜ分析を行い、全ての業務を見直し、工場の本質的な課題と向き合いました。誰一人ケガをしてほしくない、その思いから、基本の徹底にとことんこだわることを掲げ、スタートしたのが「こだわり安全活動」です。

活動の柱は2つ。1つは指差呼称を徹底することです。一度止まって「ひといき」ついで、指差呼称の対象物に意識を集中させ、確認する。もう1つは技能員が毎週末までに、作業を振り返り、困りごとや改善提案、気づきを1つ以上報告し、職長がそれに対してフィードバックをする1週1行です。PDCAを回して改善を進め、その対応状況をしっかりとフィードバックすることにこだわりを持って対応しています。また、安全に関わる提案は対策率100%を目指し、積み残し課題がないよう、工場全体で取り組んでいます。2つの柱の内容自体はシンプルですが、一人ひとりがその大切さを理解し、妥協せずに徹底的に取り組むことで、“本気で安全を守る意識”を醸成しています。

2021年の重篤災害発生後、防府工場では今日に至るまで休業無災害を継続しています。指差呼称の効果を認識する人も増え、KY意識レベルの向上から率先して確認ポイントの指差呼称(確認)ができるようになってきています。重篤災害を二度と繰り返さない決意を持ち続け、無災害達成日を1日でも長く続けていけるよう、基本に忠実に取り組んでいます。



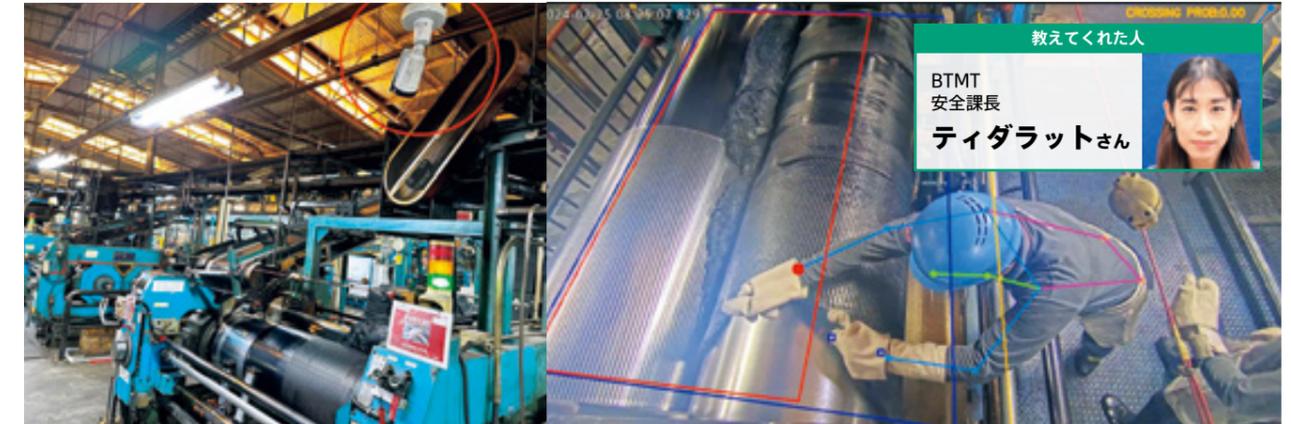
指差呼称の際、障害物や見通しの悪い方向を優先確認し、一度動きを止めることに重きを置いている



納得することが行動の徹底につながるため、1週1行で集めた意見に対してマネジメント層は必ずフィードバックする

BRIDGESTONE TIRE MANUFACTURING (THAILAND) CO., LTD. (BTMT)

“パーフェクトな安全”への飽くなき探求



押出工程の熱入れロールの上にAIカメラを導入

標準遵守ベースの安全な現場づくりを技術で支える安全支援システム

トラック・バス用タイヤを製造している BRIDGESTONE TIRE MANUFACTURING (THAILAND) CO., LTD. (以下、BTMT) では、2022年末に押出工程で重傷災害が発生しました。「仲間にケガをしてほしくない、他の工場でも同様の災害を起こして欲しくない」——そんな思いから、BTMTでは今一度安全宣言に立ち戻り、3S、KY、RA、安全ルールの取り組みを再検証し、その活動の質向上を目指しています。また、「VOO活動(困りごとと改善)」や「小集団改善活動」などを通じて、全員参加での安全な職場環境と人づくりを強化しています。

作業従事者がより安全に作業できるように、安全パーや非常停止ボタン、エリアセンサーなどの既存の安全装置に加え、AI技術を活用することで危険を早期に検知し、停止させる安全支援システムの開発に取り組んでいます。具体的には、押出工程の熱入れロール装置へのAIカメラの導入です。危険源である回転体に身体が近接する作業の場合でも、システムがより能動的に危険を検知し安全に停止させる仕組みです。

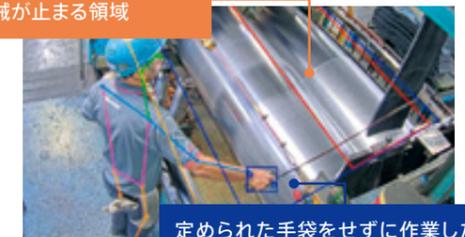
AIカメラには、意図した状況を正しく検知できるように、さまざまな学習をさせました。例えば、人間の手と手袋の違いを認識させるために、素手や、汚れた手、汚れた手袋、新品の手袋など、想定される全てのものを認識させ、意図しない機械の停止や警報音の発報がないように、東京・

小平の技術センターと連携しながら入念な検証を行いました。

現在は押出機のロール設備に試験的に組み込み、安全性のみならず作業性も含めた長期間にわたる評価を進めています。この結果を踏まえ、本格導入ならびに他設備への拡大を行う予定です。

こうして、安全な職場環境を目指してソフト面(意識・仕組み)の対応に加えてハード面(技術)での対策を進め、パーフェクトな安全を目指します。

技能員の手を検出した場合
即機械が止まる領域



定められた手袋をせずに作業した場合
警報で知らせる領域

AIカメラが素手を検知した場合、機械が自動で即停止する領域を設定し、未然にケガを防止するシステムを構築

一人ひとりが安全意識を

安全支援システムは、あくまで安全確保の補助ツールです。従業員一人ひとりの安全確保に向けては、一人ひとりの意識も重要です。その上で、仕組みと技術で安全を確保していきます。G安全・防災戦略企画・技術部では、こうした技術を横展開できるように、BSEAST安全・防災・環境推進部門はじめ各SBUと連携して進めていきます。

ブリヂストンタイヤサービス東日本（株）京浜本牧店

「作業標準」が安全を守る



教えてくれた人
ブリヂストンタイヤサービス東日本（株）
京浜本牧店 技能マスター
小泉 範之さん

※技能マスター：高い技能レベルを有するメンテナンススタッフ「技能エキスパート」の中でも安全性、確実性、迅速性、タイヤメンテナンスの知識などの観点から特に優れたメンテナンススタッフが得られる称号

拠り所となる作業標準

主に大型トレーラーを中心としたトラック・バス用、産業車両用タイヤなどの交換・メンテナンスを担う京浜本牧店。小泉さんは、メンテナンス作業をテキパキと行いながら、10人余りのスタッフを指導する技能マスターです。

新しく配属された従業員にまず伝えているのは、「メンテナンス作業は一つ間違えると、自分たちやお客様にもケガや事故のリスクがある」ということです。例えば、ホイールを装着したトラック・バス用タイヤは1本で重量が100kgを超えるため、取り扱いを間違えるとケガをするリスクもあります。またナットの締め付けが不十分だと、走行中に脱輪事故を起こす可能性もあります。ドライバーや同乗者だけでなく、車両の周囲にいる方の命にも関わらねないため、ナット1本の締め付け作業にも細心の注意を払っています。「一つひとつの迅速・確実・丁寧なメンテナンス作業がお客様の安全を支え、一人ひとりの行動が自分たちの安全な職場をつくる」という意識をスタッフ全員が持つことがスタートラインです。

メンテナンス作業の拠り所となるのが、全国39名の技能マスターの意見を取り入れ、毎年更新される「作業標準」。2010年に策定され、現在は「トラック・バス用」「乗用車用」「鉱山・建設車両用」など、商品ごとに体系的に整理されています。「全国のお店でも同じサービスを提供することを目的に作られました。作業標準が無かった時代と比べ、どのお店でも高品質のサービスが実現できるようになり、安全性も格段に向上しました。」

作業標準は図や画像が掲載され、動画へのリンクもあり、配属2～3日目の新入社員でも分かるように作られています。その全てを覚えるのは容易ではありません。一人ひとりの性格や適正を見極め、

組織内での計画的な育成および先輩社員による指導とマニュアルの両輪で教育を進めています。



現場でのメンテナンス作業のノウハウ継承も技能マスターの重要な役割の一つ



「ブリヂストンのサービス品質、安全品質が高いことは間違いありません」。その理由の一つがこの作業標準の存在にある

常にベストを追求し続けたい

日々状況が変わるなかで、安全確保と品質向上に100点はないのかもしれませんが、ただ、限りなく100点に近いレベルを維持することはできます。昨日よりも今日、今日よりも明日、と継続的に改善を続けることでオペレーショナルエクセレンスを追求し、お客様の安全運行を支え、自分たちの安全な職場をつくっていきます。

Otraco International Pty Ltd

お客様のビジネスを止めない



最重要顧客価値は「安全」

Otraco International Pty Ltd (以下、Otraco) は、52年にわたってオーストラリアを中心に、チリや南アフリカなどの鉱山で使用される鉱山車両のタイヤ交換を主な業務としてサービスを行うリーディングカンパニーです。また、独自のタイヤマネジメントシステム (OTRACOM) を活用し、タイヤ管理に加えて、タイヤを長く使うための提案活動を実施しています。2021年、ブリヂストンのグループ会社であるBridgestone Mining Solutions Australia (BMSA) が同社を買収し、両社の知見やノウハウを生かし、より多様な顧客価値に応えられるようソリューション提案内容の充実化を図っています。

鉱山現場は24時間365日稼働が止まることがありません。災害を起こしてしまうと、鉱山オペレーションが止まり、鉱物の出荷ができなくなり、お客様のビジネスに多大な影響を与えてしまいます。そのため、最重要顧客価値は「安全」です。降雨で地面がぬかるんでいようが、真夜中であろうが、過酷な環境で安全を確保したメンテナンス作業が求められます。そうした背景もあり、過去に起こした災害履歴や安全教育、安全体制などがしっかり整っていないと、お客様からビジネスパートナーとして選んでもらえません。

日頃から安全リスクを調査し、対応策の検討や啓発活動を行っているほか、万が一災害を起こしてしまった場合は、システムを通じて世界中の鉱山現場へ直ちに情報共有し、注意喚起を行います。その上で、真の原因を突き止め、再発防止策の立案・検証を行い、継続的な改善を行っています。



事務所で行われた安全教育の一幕

安全活動の高みを目指して

鉱山車両用タイヤは、大きいものだと直径4メートルを超え、作業を誤ると重篤な災害につながりかねません。そのため、Otracoは創業以来、安全活動に力を入れ、オーストラリアの自前訓練施設で、人材育成を行っています。従業員からは「会社が従業員一人ひとりの安全を本気で考えてくれていることが分かる」といった声もあり、「安全はすべてに優先する」が根付いています。世界のインフラを支えているという自負を胸に更なる安全の高みを目指して、これからも改善活動を続けていきます。

大切なのは「安全宣言」を軸に全員が活動を継続すること



(株)ブリヂストン
安全・防災・環境部門長
藤原 朗裕さん

私たちは、これからも「パーフェクトな安全企業」を目指し、意識・技術・仕組みの面から取り組んでいくことに変わりはありません。これまで話してきたとおり、意識・仕組みという側面では「安全成熟度評価」を生産拠点に加えバリューチェーン全体に展開・拡大し、技術的な側面では大きなケガにつながる可能性のあるロール機などの12種類の設備について、安全対策を継続しています。また、これまでハード面で有効な対策を打てていなかった残留リスクに対し、AI技術を活用した「安全サポート技術」の開発に着手し、少しでもリスクを下げる取り組みを進めています。このような活動をこれからもグローバルで推進していきます。

皆さんの職場においては、まずは皆さん自身が守るべきルールをしっかりと守ってください。そして安全面や防災面で「危ないな」と思ったら、ぜひ声をあげ、改善につなげていただきたいと思います。

ケガやトラブルが多い会社からは良い商品・サービスは生まれません。そういう会社から商品を買いたいと思うお客様もいません。やはり「安全は全ての企業経営の基盤」です。

安全宣言は、安全に対するブリヂストンのポリシーであり、活動指針です。妥協せず、ブレ無く、例外無く全員が行うべき行動規範・守るべき社内規範です。今後もグループグローバルの各拠点と連携し、安全宣言を軸に皆さんと一緒に安全な職場をつくっていきます。

世界最高峰の ゴルファーたちを支える、 ブリヂストンのゴルフボール

2023年 国内販売数量 No.1

ブリヂストンスポーツ株式会社（以下ブリヂストンスポーツ）は、2023年、国内販売数量No.1[※]を獲得しました！店頭で最も売れたゴルフボールブランド[※]を世に送り出し、更なる進化を続けているブリヂストンスポーツ。今回はゴルフボールに着目し、その奥深い世界を紐解きます。既にゴルフを楽しんでいる方もそうでない方も、ぜひご覧ください。

※2023年ゴルフボールブランド別年間国内販売数量ベース
出典：株式会社矢野経済研究所小売店実動向調査「YPSゴルフデータ」2024年1月現在



ブリヂストンスポーツが歩んできた、 ゴルフボールの進化

創業翌年の1932年から、ブリヂストンはゴルフボールの開発を始めました。当時は日本のゴルフ人口がまだまだ少ない時代でした。そして、1935年には第1号の国産ボールを発売し、その後もさまざまな革新的技術を搭載したゴルフボールを世に送り出しています。その性能は国内外から高い評価を受け、プロ/アマチュア問わず多くのゴルファーから認められています。そして、商品開発において技術革新を追い求める姿勢はもちろんのこと、店頭での販売量を拡大するための諸施策の実行、生産部門での量産体制構築など、各現場での取り組みの結果、「2023年国内販売数量」No.1を獲得することができました。



ブリヂストンスポーツ（株）
関工場長
井上 道夫さん

生産を支えたブリヂストンスポーツ 関工場長から

コロナ禍において密を避けやすいゴルフは市場が拡大し、関工場ではゴルフボール増産のため、生産体制構築を行ってきました。従業員の皆さんには、早出残業や休日出勤の他、勤務シフトも3班3交代制から4班3交代制にシフト変更をお願いしたり、設備面においてもゴルフボール成型機の増設をしたりと増産に取り組んできました。それでも需要に追いつかず、採用にも力を入れています。従業員数はコロナ禍前の2020年から1.7倍に増え、ベテラン従業員は新人教育に奮闘しながら高い品質維持に取り組み、新たに加わった仲間は先輩のサポートを受けながら日々成長しています。お客様に1ダースでも多く使っていただくための取り組みの結果、2024年は2020年比1.7倍の生産数量を計画しています。今後も工場と開発、販売が一体となり、お客様に高品質なブリヂストンのゴルフボールをお届けできるよう取り組んでいきます。

タイヤとゴルフボールの共通点 「接点の科学」に情熱を注ぐ

ゴルフは、クラブとボールがコンタクトする、たった1/2000秒の「接点」ですべてが決まるスポーツと言われています。「接点」へのこだわりはタイヤと通ずるものがあり、ブリヂストンのゴルフボールにはタイヤ開発で培われた解析技術などが活用されています。更に最近では、サステナブル素材の材料開発においても連携を深めています。

ユーザーの声が開発の原動力に

ユーザーとの「接点」も、ゴルフにとって大切な要素の一つ。新商品開発は企画・販売部門がユーザーの声を集めてくることから始まります。小売店の担当者や購入者から寄せられたご意見の他、お客様のスイングに合わせて最も飛ばせるボールとクラブをご提案するボールフィッティングイベント、各地区のゴルフ連盟が主催するアマチュア向け研修会で挙げられた要望など、ゴルフボールに対するさまざまなニーズを

知っているようで知らない？ ゴルフボールの中身

ゴルフボールの中心には、ゴムでできた「コア」（もしくはセンター）と呼ばれる芯があります。それを「インナーカバー」や「アウターカバー」と呼ばれる薄い樹脂の層で包んでいます。コア、インナーカバー、アウターカバー、それぞれの材料の反発性や硬さ、厚みなどに加え、ボール表面のディンプルの形状や塗装など、ボールの性能を決める要素はいくつもあります。ゴルフボールの商品開発では、ユーザーが求める性能を実現するためにこれらの最適な組み合わせを研究しているのです。



コア、インナーカバー、アウターカバーの内部構造

分析しています。

また、商品開発には国内外で活躍する契約プロからもご協力いただいています。中でも2024年2月に新しく発売した「TOUR B X / XS」は、長年世界のトップで活躍しているプロゴルファー、タイガー・ウッズ選手（以下ウッズ選手）の要望に応えるべく開発された注目のゴルフボールです。その仕上がりに、ウッズ選手から「ブリヂストンの開発者たちはGenius（天才）」

だ！」と称賛の声をいただきました。

次のページからは、プロも納得のゴルフボールを実現するまでの開発ストーリーをご紹介します。



タイガー・ウッズ選手

Geniusな開発チームが探求し続けた ボールの“性能”と“音”の関係

前作である2022年モデルの「TOUR B X / XS」は国内外の選手からの評価が高く、2024年モデルの開発にあたって「あまり変えないでほしい」という声もいただいた程でした。そこで大幅に刷新はせず、ゴルフボールとして求められる基本性能は進化させつつも、打った時のフィーリングを向上させる方向での開発を進めました。しかしフィーリングの向上は、開発チームにとって困難の連続でした。

“音”からスタートしたボール開発

「欲を言えば、あと少しアプローチでの『ディープ感』が欲しいな」。

ゴルフボールの開発チームへそうリクエストしたのは、世界的なゴルファーであるウッズ選手でした。2017年、「ブリチストンのボールを使いたい」と、ウッズ選手からアプローチがあり、ブリチストンスポーツと契約しました。打感に対する感覚をこれまで何度もすり合わせてきた開発チーム。彼らでさえ、ウッズ選手の言う「ディープ感が欲しい」というリクエストに最初は何のことを言っているのか分からず、頭を悩ませたと言います。

商品開発部の笠嶋さんは言います。「『ディープ感』はウッズ選手ならではの表現です。それも何か一つの性能・状態ではなく、さまざまなポジティブな要素が合わさった状態を指していることがこれまでの対話で分かっていました。より良い商品を目指すためには、この『ディープ感』の正体を暴き、解決しなければならなかったんです」。

その言葉を紐解くヒントは音にありました。計測・評価を担当した甲斐さんは言います。「ウッズ選手はゴルフボールがクラブに吸い付くような、“乗り感”を好む傾向がありました。逆に好みでないのは、ボールを打っ

た時にクリッキー（マウスのクリックのような、カチカチというプラスチック音）な音がするもの。私たちは“乗り感”があり、クリッキーな音がしない軟らかさを感じられるものを『ディープ感』と表現しているのではないかと考えたんです」。

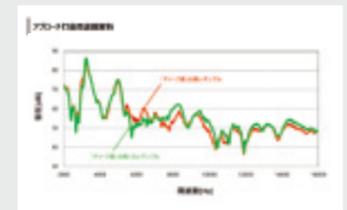
そこで、甲斐さんを中心とした計測・評価チームは打音をデータ化。「ウッズ選手の感覚的な表現を定量化するため、打球音の周波数解析を行ったところ、クリッキーな音とは打球音のある特定の高周波成分であることが分かり、これを抑える材料・構造を目指す方向性が固まりました」。

「飛ぶのに、止まる」 二律背反の性能を極め続ける

ウッズ選手の求める「ディープ感」を叶えるために。笠嶋さんは言います。「ボールの一番外側にあるアウターカバーに軟らかい材料を採用することで、アプローチショットの際のクリッキー音は抑えることができます。ただそれではスピンのかかりやすくなってしまい、ドライバーショットのように飛距離を出したい場面では、思うように飛ばなくなってしまう。これまでも開発チームが追い求めてきた『飛んで、止まる』というゴルフボー

ゴルフにおける「音」の大切さ

ゴルフにおいてボールを打った時の音はプレーにも影響します。野球のように球の球速や回転数、高さなどが一球ごとに異なる競技と違い、ゴルフは静止したボールを打つスポーツ。自分がどこにどのように飛ばしたいかイメージして打ちます。イメージには打感も含まれ、その打感の大部分は音からくるものと基礎研究でも分かっています。打った時の打感、つまり音がイメージと異なると思った通りのショットが打てず、結果的にスコアが乱れてしまいかねないのです。



打音データの周波数を見る化したもの

ルの永遠の課題と改めて対峙することになったんです。開発チームは頭を悩ませ、アプローチショットに大きな影響を及ぼすアウターカバーと、ドライバーショットの際に内部で反発力を生み飛距離を伸ばすインナーカバー、中と外でそれぞれ異なる新材料を探し始めました。

材料開発を担当した永沢さんは「飛んで、止まる」という二律背反の性能を導き出すために「正直、とても苦労しました」と振り返ります。「材料供給メーカーからカタログや技術資料を取り寄せるところから始めました。しかしどこにも音についての記載はありません。実際にサンプルを取り寄せて手で叩いてみたり、床に落としてみたりと一つひとつ確かめる他なかったんです。量産工場での生産性も考慮し、分子構造にまで着目しながら材料開発を繰り返しました」。

同時並行して、笠嶋さんや甲斐さんらはテストセンターのショットロボや高速度カメラを使ってスピンのメカニズムを分析。どの部分にどのような材料を使用して組み合わせたら良いか、最適解を科学的に導き出してきました。



ブリチストンスポーツ テストセンターで使用しているショットロボ。スイングスピードや角度などを自在に設定でき、一定の条件でデータを収集できる

「Genius !」 ウッズ選手が評価したのは……

検証の結果、「アウターカバーに衝撃吸収材を新たに配合することでディープ感を付与し、ゴルフボールがクラブに吸い付くような“乗り感”を実現できることが分かりました。『NEWリアクティブiQ・ウレタンカバー』と称するこのアウターカバーはクリッキーな高周波音を抑える効果だけでなく、傷つきにくく長く使えるという性能もプロに評価されています。量産体制の構築のみならず、数千個にわたるプロトタイプ生産で新材料検証を支えてくれた関工場には大変感謝しています」。



リアクティブiQ・ウレタンカバーに配合した、新材料の衝撃吸収材



更にインナーカバーも従来からパワーアップ。「剛性や比重などを調整したNEWハイスピードインナーカバーによって、ドライバーショットなど強い力を加えた時に大きな反発力を生み出します。これによって飛距離は向上。スピンも抑えられ、風に強い弾道を実現しました」。

こうしてできあがったプロトタイプは、2023年秋に再びウッズ選手の元へ。試打後、ウッズ選手はこんな言葉を開発チームへ送りました。「アプローチなど短い距離のショットではスピン性能をアップ、ドライバーなどのロングショットでは飛距離をアップしてくれた。長年素晴らしいボールを生み出しているブリチストンの開発陣はGenius (天才)だ。彼らにそう伝えてほしい」――。

開発チームは喜びを噛み締めました。「“モノ”ではなく開発した“人”に対して評価いただけたことは非常に誇らしかったですね。試行錯誤しながら進んできた道は間違いではなかったんだと確信が持てました」。積み上げてきたウッズ選手との信頼関係と、「飛んで、止まる」という二律背反に対して真っ直ぐに向き合い続ける開発チームが、ゴルフボールの新しい境地を開いた瞬間でした。

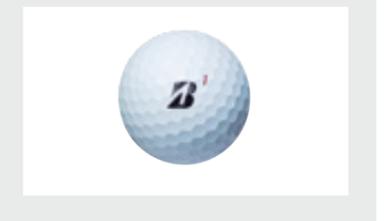
2024年2月、新しい「TOUR B X / XS」の販売がスタートしました。長年「接点の科学」を突き詰めてきた開発チームですが「まだまだ進化の余地はあります」と口を揃えます。「ウッズ選手との契約は、ウッズ選手側

からブリチストンに声をかけてくださったことからスタートしました。あらゆるメーカーのゴルフボールを試し打ちして、ブリチストンのものを使いたいとおっしゃってくれたんです。この時のように、多くのプレーヤーが『使いたい!』と思うようなゴルフボールをつくり続けること。これが私たちの目指す先です」。

ゴルフを楽しむすべての人の夢を載せて。世界で活躍する選手の挑戦や“ゴルフのわくわく”を支え、ブランドプロミスである「最高のパフォーマンスをあなたと。」の実現に向けた挑戦は続きます。

ボールに傷が付くとどうなる？

ゴルフボールの表面には、ディンプルと呼ばれる小さな凹凸があります。ディンプルは、ボールが飛んでいく際の空気の流れを整え、空気抵抗を低減する効果があります。もしボールに傷が付いてしまうと、本来のディンプルの性能を発揮できず、飛距離が出なくなったり、ボールがまっすぐ飛ばず、曲がってしまったりするなどの影響が出てしまうのです。



教えてくれた人



ブリチストンスポーツ(株)
ボール商品開発部
部長
笠嶋 厚紀さん

1994年の入社以降、ゴルフボール開発一筋。ディンプルや成型用金型を担当したのち、2007年からはアマチュア用ボールの開発を担う。2014年からはプロ/アマチュア両方のボール開発を統括している。



ブリチストンスポーツ(株)
技術開発本部 技術開発室
室長
甲斐 雅貴さん

1995年に入社し、日米での計測・評価を中心にゴルフギアおよびレッスンやフィッティングの技術開発に広く携わる。現在は新商品開発における計測・評価、ブリチストンゴルフ公式アプリのスイング解析機能の開発を担当。



ブリチストンスポーツ(株)
ボール基礎技術開発部
部長
永沢 裕之さん

1997年に入社し、ゴム開発に携わる。分析業務やウレタン材料の開発担当を経て、2018年からはゴルフボールを構成するすべての素材の材料開発を担当している。



新商品でも「飛んで止まる」を追求

「日常」を止めないために 被災地を支えるためにブリヂストンができること



令和6年能登半島地震で被災されたグループ従業員やご家族の皆様、お取引先様、関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。ブリヂストングループは、事業や支援活動を通して、被災地の復旧・復興に貢献しています。

■ 免震ゴムが医療継続に貢献

石川県七尾市にある恵寿総合病院は、能登半島地域の基幹病院の役割を担っています。全4棟ある病棟のうち、3棟は耐震棟、最も新しい1棟が免震棟でブリヂストンの免震ゴムが採用されています。耐震棟では、内部の設備の損壊、器具の転倒などが発生したことにより医療機能を一時喪失した一方で、免震棟は被害がなく医療機能を維持できたため、地震発生後の緊急手術にも対応でき、地域の命を守る一助となりました。



恵寿総合病院で使用されているものと同じ免震ゴム

地震の恐怖から心も守る



(株)ブリヂストン
建築ソリューション事業企画部
免制震事業企画課
谷 佑馬さん

免震構造の建物は、地盤と建物間に免震層を設け、設置された免震装置が、地震による揺れを吸収します。建物に伝わる揺れは耐震・制震構造に比べはるかに小さくなります。そのため、建物や中にいる人々、設備や家財などの資産を守るだけでなく、地震に対する恐怖から心も守ることができるのが、免震構造の一番の特徴です。それを足元から支えることが、免震ゴムの大きな役割です。

地震後もインフラ機能を維持

過去の大地震では多くの建物や社会インフラにも大きな被害が発生しましたが、免震建物には機能が維持できないほどの被害はありませんでした。そのため地震後の復旧が早く、免震化された病院や庁舎、消

防署などは地震直後でも機能を維持し、迅速な救命活動や避難所としての活用など、災害対応の拠点として大いに貢献しました。

そうした経験から、医療機関をはじめ製薬会社の研究所・生産工場、社会インフラであるデータセンターなどの建物の免震化が進んでいます。その一方で、2023年時点で免震化されている医療機関の建物は全体の10%以下に留まります。更なる免震普及が課題となっているため、ブリヂストンでは需要創造活動にも力を入れています。

今後、今回の能登半島地震で揺れの大きかった地域にある免震ゴム納入物件の点検や、技術サービスの要請に速やかに対応し、免震ゴムトップメーカーとして、より社会の期待に応えていきます。

免震ゴムが守ってくれた能登の医療



社会医療法人財団
とうぜんかい
董仙会本部 常務理事
神野 厚美様

本館の新築時に、バリューエンジニアリング^{*1}として免震構造を提案され、地震に非常に強い構造として以前から興味があったため、免震装置の導入に踏み切りました。免震装置により上階での揺れが低減されるため、梁を扁平^{へんぺい}にできるなど居住空間が充実し、デザイン性に富んだ空間となり、将来的な改修にも対応しやすいといった地震発災以前からもメリットを感じていました。

今回の地震では、免震ゴムが威力を発揮し、高減衰ゴムと通常のゴムが連携して揺れを吸収し、建物を守ってくれました。「力強く守り、そして元に戻してくれた!!」そう実感した瞬間です。手術室では、細か

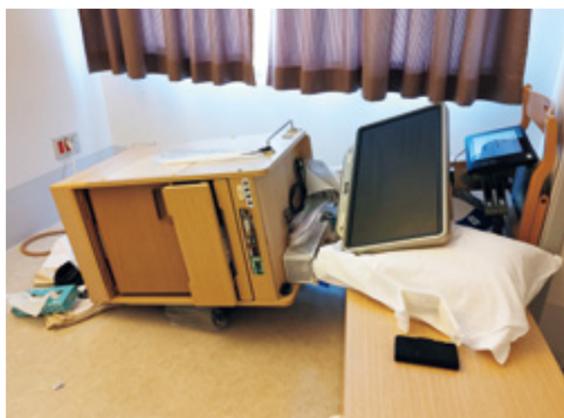
な物品を扉のないスチール棚に置いていますが、落下したものは全くありませんでした。地震後の片付けも、耐震建物と比べると非常に少なく済んだので、負担も大きく軽減できました。

発災後に電気系統も破損することなく、通常と変わらない医療を提供できたことは、奇跡です。ケガキ板^{*2}の軌跡は、能登の奇跡です。

^{*1} 製品やサービスの「価値」を、必要とされる「機能」と「コスト」の関係で捉え、システム化された手順によって「価値」の向上をはかる手法のこと
^{*2} 地震により通常の建物の位置からどのくらい移動したかを記録する、免震装置の一部

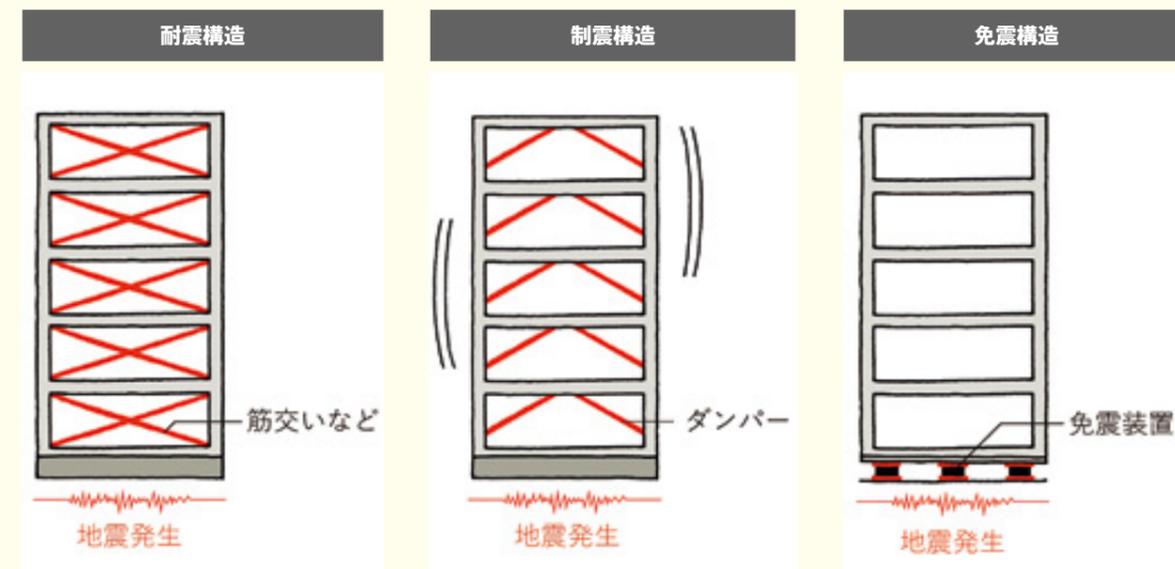


1月4日のロビーの様子。免震棟にあり、年始休診後に通常通り再開している



耐震棟では、備品の転倒や落下などが発生した

耐震構造の違い



建物自身力で揺れに耐える

建物に伝わる揺れに大きな加速度が発生し、建物内部の設備や家財が倒れるなどの現象が発生する。また、設計想定以上の大地震が発生すると、壁、柱、梁が損傷することで、建物自体が倒壊することを防ぐ。

揺れをダンパーで吸収

揺れが建物に伝わる点は耐震構造と同じだが、壁・柱・梁に設置された専用のダンパーで揺れを吸収する。それにより、壁・柱・梁の大きな損傷を防ぐ。

免震装置が揺れを吸収

地盤と建物間に免震層を設け、設置された免震装置により地震エネルギーを吸収する。建物へ伝わる揺れは耐震・制震構造に比べはるかに小さい。

樹脂配管が仮設住宅に採用

石川県は、3月末までに被災世帯向けの仮設住宅4,600戸を着工することを決定しました。
3月6日時点で着工済みの3,005戸の約8割に、ブリヂストンの樹脂配管（給水給湯用パイプ、継手）が採用されています。



仮設住宅建設に携わった、給排水設備工事会社 eruplus（株）
専務取締役

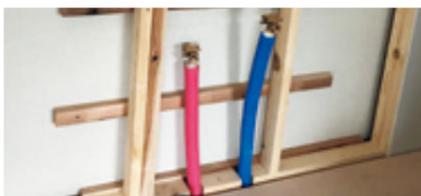
園 岳大様

—今回ブリヂストンの樹脂配管を採用した理由を教えてください。

施工性が良く、日頃からブリヂストンの製品を使用しており使い慣れていること、また、ブリヂストンの担当者と直接相談ができる関係性があったことも理由の一つです。

—ブリヂストンの樹脂配管の優れているところ・メリットと感ぜられるところを教えてください。

パイプの切断、継手への接続がしやすく、保温加工済みの部材もあり、施工の手間を省けることです。また、従来の管に比べ重量が軽く、運搬も楽です。



七尾市万行1号公園仮設住宅で使用されている樹脂配管

作業しやすい部材の供給で、短期間での工事に貢献



ブリヂストン化工品ジャパン（株）
樹脂配管北陸営業課

池田 達紀さん

仮設住宅の利用期間は原則1年、最長でも2年間で、それ以降は撤去されます。一般住宅に比べ使用期間は非常に短いですが、求められる品質や安全性は変わりません。ですが、工事開始までの準備期間や工事そのものの期間がとて短いので、短納期での部材供給と施工が求められるという点が異なります。また、ほとんどが被災地域に建設されるため、部材の運搬に通常の運送便が使えない、一時保管する場所がない、大きなトラックが用意できないなど、物流面でも

厳しい状況にあります。こうした点も、一般住宅の建設とは大きく異なります。

そうした中で、ブリヂストンの樹脂配管は、作業工数が削減できる点、製品自体がコンパクトで運びやすい点で評価を頂いています。

今回の納入にあたっては、県外からの応援に非常に助けられています。各地区のブリヂストンの営業担当者が積極的に動いてくださったおかげで、納入は順調に進められています。

これまでのノウハウを生かし、スピーディーな納入体制を構築



（株）ブリヂストン
建築ソリューション事業企画部
配管事業企画課

伊勢野 康秀さん

新潟県中越地震（2004年）、新潟県中越沖地震（2007年）、東北地方太平洋沖地震（2011年）、熊本地震（2016年）で急ぎ仮設住宅が建設される際、ブリヂストンは建設に必要な樹脂配管資材を供給し続け、早期

建設に貢献してきました。これらの経験から得た、被災地のインフラ普及状況などを考慮した配送方法、仮設住宅の建設工程や建物スペックについての知識を生かし、関連部署と連携して、必要な資材を速やかに納入する



（株）ブリヂストン
建築ソリューション事業企画部
配管事業企画課

牧野 健一さん

体制を構築しています。全国にある営業倉庫から必要な製品をタイムリーに出荷できることや、建設現場での施工の手間を省くことができる部材であることが、ブリヂストンの大きな強みです。

プッシュマスター

パイプと継手を差し込むだけで接続できるため、現場でねじを切ったり、接着剤をつけたりする手間を省くことができます。



らく楽パイプ

巻き癖が少ないため、現場での取り回しが容易に。製品自体が軽くてコンパクトなため、運びやすいといった特徴もある。パイプをコルゲート管で覆い耐傷性を高めた「らく楽コルゲートパイプ」（写真）や、保温材があらかじめセットされたパイプもラインアップしている。



ブリヂストングループの支援活動

救急車用パンク対応タイヤの寄贈

被災地での救急活動を行っている現地消防局へ、
救急車・消防指揮車用のパンクしても走行が可能なタイヤ（パンク対応タイヤ）を寄贈しています。



石川県津幡町消防本部への寄贈に立ち会った、ブリヂストンリテールジャパン（株）技術サービス部 木内 廣さん（左端）、（株）ブリヂストン G-MICA・ソリューションQA推進部 笹川 徹さん（右端）



パンク対応タイヤを装着した救急車（手前2台）と、消防指揮車（奥）

スタッドレスタイヤおよびホイールセットを提供

ダイハツ自動車販売協会様が被災地区自治体へ寄贈される中古軽自動車（全24台中の16台）に対し、スタッドレスタイヤおよびホイールセットを提供しています。



サービスカーの貸与

損壊のあったお取引先のタイヤショップへ、パンク修理などに対応できるサービスカーを貸与しています。



仮店舗へ納車した際の様子

災害備蓄品をはじめとした物資支援

ブリヂストンやグループ各社が保有している水や簡易トイレなどの災害備蓄品を、被災地域のお取引先、従業員へ提供しました。



義援金の寄付

ブリヂストングループから義援金として1,000万円、従業員募金「BSmile」から50万円を日本赤十字社に寄付しました。また、1月下旬から約2週間、ブリヂストン労働組合協力の下、労使合同募金を行い、210万1,358円の募金が寄せられました。被害の甚大さを鑑みて、ブリヂストングループでのオンライン募金を4月30日（火）まで受け付けています。



募金サイトはこちら

師匠と弟子



鳥栖工場にてインタビュー
 保全作業でグローバルをリードする

基本を徹底し、若手を成長させられる
 リーダーを目指します

安定稼働を守り続ける保全業務の誇りとやりがい

(株)ブリチストン 鳥栖工場 設備課 保全係

今回は、2023年の「設備保全技能競技会」の溶接競技で優勝した(株)ブリチストン 鳥栖工場の田中さんと、4年にわたって押出工程の機械保全業務で、田中さんを指導した酒井さんにお話を伺いました！

酒井 設備保全技能競技会の優勝、おめでとう。溶接作業を見ていて「お、うまいな」と思ってたけど、まさか優勝するとは。

田中 ありがとうございます！プレミアムタイヤを生産する鳥栖工場の代表として、成果が残せて良かったです。

酒井 純くんと最初に会ったのは、定期採用で純くんが加硫工程の保全業務に配属された時かな。僕はOJT担当で、当時からよく笑う、明るい印象だったよね。

田中 酒井さんは、年齢も比較的近くて話しやすく、優しいというのが第一印象でした。その時も親切にいろいろ教えていただきましたね。

酒井 2020年から2023年まで押出工程の

保全業務で一緒だったけど、一番印象深いエピソードはそのちょっと前にあった補修作業だよ。押出工程の熱入れロールが故障して、年末年始の5日間にわたって朝から晩まで4人で修理した。

田中 あれは大変でしたね。とにかく寒かった。機械から水漏れして、いくら溶接してもどうやっても水が止まらなくて。

酒井 工場としてもあまり例のない故障で半分手探り。先が見えないまま生産再開予定の連休明けが迫ってきて、もう気が気じゃなかった。

田中 万策尽きたと思った時にひらめいたのが酒井さんでした。「溶接できないなら水漏れ箇所をセメントで埋めよう」と。標準に

も書いていないやり方で、僕にはとても思いつかない発想でした。溶接をあれだけ試していたら「何とか最後までやり切る」って普通考えると思うんですけど、スパッと別の発想に切り替えるのがすごいと思いました。

酒井 現場でできることはないか、常に視野を広くして考えるように心掛けていますからね。純くんは確かシフトで応援の形で加わってくれたんだよね。音を上げずに諦めない姿勢が頼もしいと思ったよ。

押出工程の保全業務って、補修もそうだけど、点検基準に沿った押出機の定期的なチェックが主な仕事だよ。どういう気持ちで取り組んでる？

田中 昔からの設備も多いので、今後も長く



(株)ブリチストン
 鳥栖工場 設備課 保全係 検査工程担当
酒井 馨一さん (2004年入社)

いつも笑っている	相手の第一印象	優しい
ロッカーの3S意識が低いところ	相手に直してほしいところ	あるはずがありません！
カバ（口を大きくあけて豪快に笑う）	相手を動物に例えると	シカ（スマートでセンスがある）
僕の上司になるくらい活躍してください	相手に望むこと	これからもご指導お願いします



(株)ブリチストン
 鳥栖工場 設備課 保全係 押出工程担当
田中 純さん (2008年入社)

師匠 × 弟子

使い続けられるように愛情を持って取り組んでいます。そして、他の工程よりも一台一台の装置が複数の建屋をまたぐ程長く大きいので、他のマシンよりも機械を停止するチャンスが少ない分、メンテナンスの機会を無駄にしたい。もちろん、安全を確保した上で取り掛かることが一番大切です。

酒井 そうだね。特に補修は災害につながるリスクが高い業務だよ。機械が途中で止まっているところに呼ばれるわけだから、予期できないタイミングで機械が動き出す危険は常にある。

田中 日々の点検の他に、壊れたところを直すのも保全係の大切な仕事ですからね。リスクをゼロにすることはできないかもしれませんが、危険予知で自分にも仲間にも災害が起きないように徹底することは常に意識しています。

酒井 一番は焦らないこと、うかつに手を出さず、多少時間がかかっても確実に安全措置すること。それから故障箇所だけでなく機械全体を見るように意識するよね。若い人には、これまでに蓄積されてきた先輩たちの経験を伝えています。

田中 自分の身は自分で守るのは当然ですが、そのための知識をまずきちんと教えるということですね。

酒井 教えると言えば、僕が押出工程から検査工程の保全業務に異動して、純くんがリーダーになったよね。キャリア入社された方が押出工程の保全係に配属されたけど、リーダーとしての意気込みは？

田中 自分の下にメンバーがついたことが

あまりないので、これからどうやって指導していくか試行錯誤の毎日です。酒井さんの下にいて感じたのは、自分でまず手を動かすことで育てていく姿勢です。必ず自分で動かして、マシンのクセや注意すべきポイントをその場で伝える。そんな教え方をいただいたので早く身に着けることができました。これは見習いたいな。

それから、酒井さんに教えていただいたのは点検業務の重要性です。時間があれば機械を点検したり油を差したりしている酒井さんの姿を見ていると、潤滑油を必要なタイミングで差すための管理や点検で未然に故障を防ぐことこそ保全の本業だと思います。

酒井 僕の師匠もそうだったんだよね。ぜひ次の担当の人にも引き継いでほしいです。また、鳥栖工場ではデジタルによる予兆管理など最先端技術を積極的に活用して、設備保全でグローバルNo.1を目指しています。新しい保全のスタイルをここから築いていきたいね。

田中 そうですね。うまく活用できるともっと保全の精度が上げられるんじゃないかと思っています。

酒井 いつ故障するかわからないものを見える化できれば、故障する前に交換する仕組みづくりができる。ぜひ純くんに先頭を切ってもらいたいね。

田中 いえいえ、酒井さんに教えていただきながら取り組んでいます。「酒井さんがいなくなって押出の保全がダメになった」と言われられないよう頑張りますので、これからもご指導よろしくをお願いします！



押出機内部のスクリーンの寸法が仕様どおりかチェック。「故障が起きる前の、日々の点検業務を疎かにしない姿勢を酒井さんに教わりました」と田中さん



マシンの音の振動幅を確認し、タブレットで見える化。「デジタルによる予兆管理の成功事例を鳥栖工場から広く発信していければ」と酒井さん



朗らかに笑う田中さんと穏やかな酒井さん。田中さんについて、「自分のキャラクターを生かして、相手と関係を築くのは間違いなく強み。心理的安全性の高い職場をつくってくれるはず」と酒井さん



Republic of South Africa

世界のブリヂストンの チームメイト

グローバルで活躍する
ブリヂストンのチームメイトにフォーカス！
海外だからこそのやりがいや難しさ、
その国ならではの最新情報などを
お届けします！

Bridgestone South Africa (BSAF)

ブリヂストン・サウスアフリカ
— 南アフリカ共和国

From teammates

現物現場でチームメイトと切磋琢磨しています



Senior Manager,
OTR Business Development
大野 高志さん

南部アフリカ地域でのORソリューション販売を強化すべく、戦略立案から実行フォローアップまで、現地の販売チームを後方支援する役割を担っています。後方支援といってもORは現物現場が基本。販売チームと現場を訪問し、課題の抽出からが出発点です。その上で、グローバル戦略をベースに個々の販売案件対応から中長期的な視点での組織強化まで、派遣者ならではの付加価値を提供できるように心掛けています。

Q 海外ならではのやりがいや、大変なことはありますか？

自分の持っている固定観念を壊してくれることかなと思います。海外赴任は初めてではないのですが、アフリカでの仕事に最初は戸惑いました。自分の想定したスケジュールで物事がなかなか進まないことに幾度も焦燥感を覚えましたが、現実を直視し真摯に現場と向き合い続けてくれる販売チームが持ってくる「うれしい想定外」に何度も助けられています。どのような環境でも最後まで仲間を信じることの大切さを、改めて実感しています。

Q 今後の目標を教えてください！

アフリカは天然資源の宝庫なのですが、カントリーリスク（国の政治や経済の不安定さなど）も高く、オーストラリアやアメリカといった、いわゆるマイニング先進国に大きく後れを取っていました。そんな状況でも、BSAFのORチームはリスクと向き合いながら、現物現場を基本に市場・顧客アプローチを重ねることで、近年大きく販売を伸ばしています。「量」の次は「質」の強化を念頭に、チームメイトと切磋琢磨を続けています。

Bridgestone South Africa (BSAF) は、国内最大の都市・ヨハネスブルグにある本社、国内4支店、鉱山車両用（OR）タイヤの販売サービス部門、生産拠点のブリッツ工場を合わせて、約1,700人のチームメイトで構成されています。南部アフリカ地域における乗用車用およびトラック・バス用タイヤの生産・販売から、鉱山・建設車両用タイヤの輸入販売およびソリューションビジネス促進まで、幅広いビジネスを行っています。

Country information

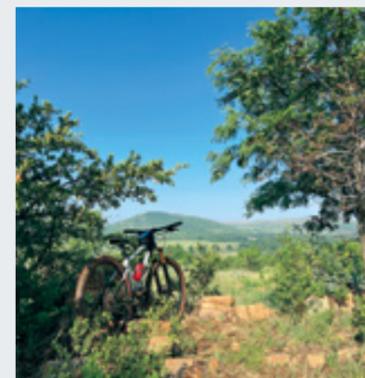


国名：南アフリカ共和国
公用語：英語、アフリカーンス語、バンツール諸語（ズールー語、ソト語ほか）の合計11言語
首都：プレトリア
人口：6,004万人
(2021年時点、出典：世界銀行)



オフタイムの過ごし方

ヨハネスブルグは治安の問題で気軽に外出できないのですが、郊外や地方に行くとアウトドアスポーツが盛んです。アフリカの大自然を満喫しながらマウンテンバイクで走破したり、連休などを利用して海沿いまで移動すれば、貸し切りの海で最高の波を堪能することもできます。



職場で活躍しているチームメイト

現場のサービスを知り尽くしたJandreさんは、ORソリューション販売の心強い相棒です。先日陸路で国境を越え、隣国の鉱山と一緒に訪問してきました。ORのお客様は僻地に点在するため、泊まりがけの出張が基本です。道中を含め厳しい住環境で1週間共に寝泊まりをすると、戦友や家族のような存在になります。現場力をベースとした結束力・一体感が、他社に負けないBSAF ORチームの強みです。



Jandreさん



お客様の元へ向かう道中での一枚

Voices お客様の声

グループ各社に寄せられたお客様の声を紹介します。
更にお客様のご期待に応えられるよう、情報源として役立てていただければ幸いです。



お客様の声の全文は
Web版Arrowをご覧ください！

- ♥ お礼・お褒めの言葉
- ？ お問い合わせ
- ★ ご意見・ご要望

♥ お礼・お褒めの言葉

「BATTLAX」の性能に感動

先日大型バイク用に「BATTLAX HYPERSPORT S22」を購入しました。新商品の「S23」がまもなく発売とは聞いたのですが、タイヤの減り具合を考えるとその時交換が必要だったため、S22に交換しました。

装着して、その性能の素晴らしさに感動しました。こんな素晴らしいタイヤを開発した方や、販売してくれた関係者にお礼を伝えてください。

(男性)



♥ お礼・お褒めの言葉

「TOUR B XS」の耐久性が気に入りました

今まで他社のゴルフボールを使用していたのですが、ブリヂストンの「TOUR B XS」は傷がつきにくいと耳にし、初めて購入してみました。使い始めると、確かにウエッジで打った時もボールに傷がつきづらく、特にカート道にボールが落ちた時にも大きな傷にはならず、目立ちにくいことを実感しました。驚きとともに、とても気に入りました。今は、コーポレートカラーのボールを気に入って愛用しています。(北海道・男性)



♥ お礼・お褒めの言葉

冰雪路面でも安心して運転できるようになりました

ホンダ フィットの中古車を購入し、それに「BLIZZAK」が装着されていました。

私は北海道在住で、それまでの車には価格の安いスタッドレスタイヤを使用していたのですが、冰雪路面でスピンし怖い思いをしたことがありました。

ですが、「BLIZZAK」装着のフィットに乗るようになってから、冰雪路面でも滑らなくなり、恐怖心が薄れ安心して運転できるようになりました。このような優れたスタッドレスタイヤを開発し販売しているブリヂストンにお礼が言いたくて連絡しました。

(北海道・女性)

BLIZZAK

★ ご意見・ご要望

月額レンタルサービスの取扱店舗を増やしてほしい

月額定額レンタルサービス「エシクル」の取扱店舗をぜひ拡大してください。環境にも経済にもエコで、とても良い取り組みだと思います。粗悪で使い捨てのような格安自転車がこれ以上増えてほしくありません。サイズが合わなくなって車体を捨てる罪悪感がないのもうれしいです。

補足

「エシクル」は、ブリヂストンサイクル(株)の子ども用自転車月額定額レンタルサービスです。

お子さまの成長や身長に合った自転車を月額定額でお得にレンタルができるサービスで、現在は東京都の一部対象店舗のみで展開しています。

ご要望を頂いたお客様には、貴重なご意見として承る旨をお伝えしました。



新たな価値を提供する

乗用車用タイヤの新商品 「REGNO GR-XIII」

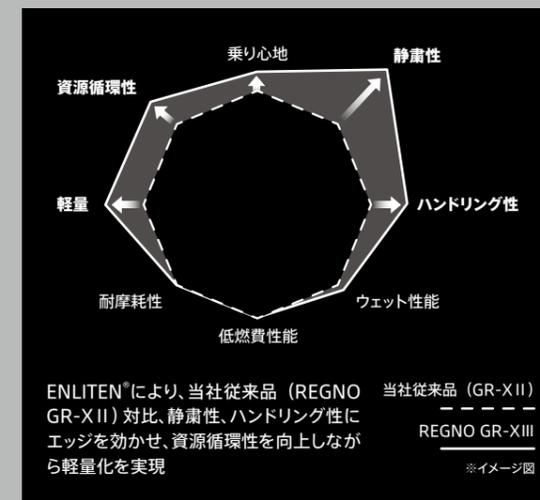


2月に乗用車用タイヤの新商品「REGNO GR-XIII」が発売されました。「REGNO GR-XIII」は国内市販用乗用車向けタイヤとして、商品設計基盤技術ENLITEN®を初搭載。モノづくり基盤技術「BCMA」と融合し、タイヤ性能と環境性能を高いレベルで両立しています。生まれ変わったREGNOの新商品「REGNO GR-XIII」の特長をご紹介します。

Point1

圧倒的な静粛性と走行性能を実現、サステナビリティにも配慮

圧倒的な静粛性による“REGNO史上かつてない空間品質”と“磨き抜かれた走行性能による質の良い乗り味”を両立させ、新しい「REGNO FEELING」を実現。路面の凹凸を通過する時に車内に伝わる振動音や、タイヤの溝の空気が周りに発散される時に発生するパタンノイズ共に静かで、静粛性を高めています。また、ハンドル操作に対してクルマが素直に曲がるハンドリング性能を備え、より心地よい乗り味を実現。加えて、サステナビリティにも配慮しています。それらを可能にしたのが、商品設計基盤技術ENLITEN®です。「走る・止まる・曲がる」を基本にさまざまな使われ方を想定し、タイヤの基本性能を全方位で向上させ、求められている性能を更に向上させることで「究極のカスタマイズ」の実現を目指しています。



Point2 今回採用された主な技術

新構造・新形状

しなやかなタイヤ変形と理想の接地を実現。これが振動を低減して音を吸収し、更に応答性の良いハンドリングにつながり、静粛性やハンドリング性を向上。更には、必要な部材のみを用いる「引き算」のタイヤ設計で達成された大幅な軽量化と転がり抵抗の低減によって、社会的ニーズの高いサステナブル性能も向上。

新トップゴム

モータースポーツ活動で進化してきたナノレベルで「見る」分析技術や、過去の膨大な知見とデータドリブンを活用した「解く」解析技術で開発された新しいゴム。パタンの変形を抑制する剛性を確保しつつ、振動を低減し音を吸収。クラス最高レベルの低燃費性能と、再生資源・再生可能資源によるサステナビリティにも貢献。

新しいパタン

消音効果が高い新たな消音器を搭載することで、特定の音の周波数で空洞内の気柱が共振してタイヤの騒音となる気柱管共鳴を低減。また、従来よりも消音器を小さくすることでパタンの剛性が向上し、ハンドリング性能も向上。

これらの技術によって、圧倒的な静粛性と走り、サステナブル性能の向上を達成。

Point3 ターゲット車両も拡大

今回の「REGNO GR-XIII」では、「質の高い乗り味」を実現し、従来のターゲット車両のラグジュアリーカーに加えて新たに輸入車などのツーリングカーやBEVもターゲット車両に変わりました。ラテン語で「王者」を意味するREGNOは1981年の誕生から43年間の歴史を積み上げ、今回新たに生まれ変わりました。2月の発売から2カ月が経ち、販売も好調です。「REGNO GR-XIII」の今後の活躍に期待しましょう！



発表会での同乗試乗体験でも、複数のBEVが用意された

TVやYouTubeでCMを放映中！



30秒編



60秒編

ありがとうの気持ち *Thank You!*

ブリヂストングループの仲間への感謝の気持ちを、
リレー形式で紹介します。

モノづくりへの意識・姿勢のあるべき姿を 教えていただきました

10年以上前の話ですが、磐田工場・関工場での新製品・新製法・新工程立ち上げなど、さまざまな業務と一緒に携わりました。常にチャレンジなことばかりで順調とは言えない状況でしたが、そのような中でも常にチームの先頭に立ち、メンバーを鼓舞していた増田さんの後ろ姿は、まさに私の憧れでした。モノづくりに対する意識・姿勢のあるべき姿の神髄を教えていただいたことは、昨日のこのように鮮明に覚えています。ありがとうございます。

今後さまざまな環境の変化があると思いますが、引き続きご指導いただきたく、何卒よろしくお願いたします。



From
(株)ブリヂストン
化工品事業開発部門 上席主幹
内山 拓さん



To
ブリヂストンフローテック (株)
磐田工場長
増田 篤さん



From
(株)ブリヂストン
PSタイヤ製品企画第2部
佐々木 達彦さん



To
ブリヂストンタイヤ
ソリューションジャパン (株)
消費財商品企画部
井川 拓耶さん

高い顧客価値を目指して、 一緒に“企画”していきましょう！

井川さんとは、国内リプレイス市場でのスタッドレスタイヤ「BLIZZAK」に関する業務と一緒に携わっています。

私の所属する「タイヤ製品企画」は技術部門、井川さんの所属する「商品企画」はセールス部門のため、専門領域としては異なりますが、商品開発や販売訴求などの場面でコミュニケーションを取らせていただいています。私が開発部隊出身で販売目線の知識が浅いところに、いつも的確なアドバイスをくださり、大変勉強になっています。いつもありがとうございます。

事務所も近くなりましたし、「BLIZZAK」のより高い顧客価値の提供を目指して、一緒に“企画”していきましょう！これからもよろしくお願いたします。

ご意見紹介

特集「走るわくわくを支えるブリヂストンの団結力
～スーパー耐久シリーズ、タイヤ供給の裏側～」について

- いろいろな車種があるので、タイヤサイズもいろいろなのは当たり前ですね。そんな中で早期対応ができる対応力の素晴らしさに感動し、一度は見に行きたいと思いました。
(ペンネーム：むらっちゃん)
- モータースポーツでの技術が市販のタイヤ性能の底上げにつながるという点にはとても魅力を感じた。
(ペンネーム：シンタロウさん)

特集「産業を支える重要パーツ『油圧ホース』のビジネスに迫る！」について

- さまざまな工場があり、どの工場で作っているか分からなかったため油圧ホースの製造現場潜入は興味深く、楽しく読みました。
(ペンネーム：ななななさん)
- 私はタイヤの直営店に勤務していて、油圧ホースについてほとんど知らなかったため勉強になりました。ブリヂストングループの大きさを実感しました。
(ペンネーム：15さん)

Present! 読者プレゼント

応募者全員
プレゼント!

「REGNO GR-XIII」
特製マスキングテープ

(P31に関連記事)

「REGNO GR-XIII」のボタンデザインを
再現した柄のマスキングテープです。



現在
鋭意制作中!
お楽しみに!

ご応募はこちらから

ペーパーレス化に伴い、Webからの応募のみ受け付けとさせていただきます。右のQRコードよりアクセスの上、ご回答ください。



※回答フォーム専用ページにアクセスします。
※アクセス時にIDやパスワードの入力は不要です。

編集後記

4月は新入社員の方も多ということで、すべてに優先される「安全」について特集しました。取材にお邪魔した防府工場では、主任会・職長会メンバーの皆さんの「二度と災害を起こさない」強い決意を感じました。ご安全に! (OO)

DNA特集で取材に対応いただいたブリヂストンタイヤソリューションジャパン (株) 北海道技術サービス部の高月部長。取材当日が奥様の誕生日で、その日の夕方には東京に戻られたそうです。「技術サービス」から「家族サービス」まで、立派にご対応する姿が印象的でした。(YO)

今号の読者プレゼントは、前回大好評だったタイヤボタン柄マスキングテープの第2弾です。第1弾の「BLIZZAK」を使い切ってしまった方、お待たせしました。夏タイヤに交換しましょう。ご応募お待ちしております! (SN)